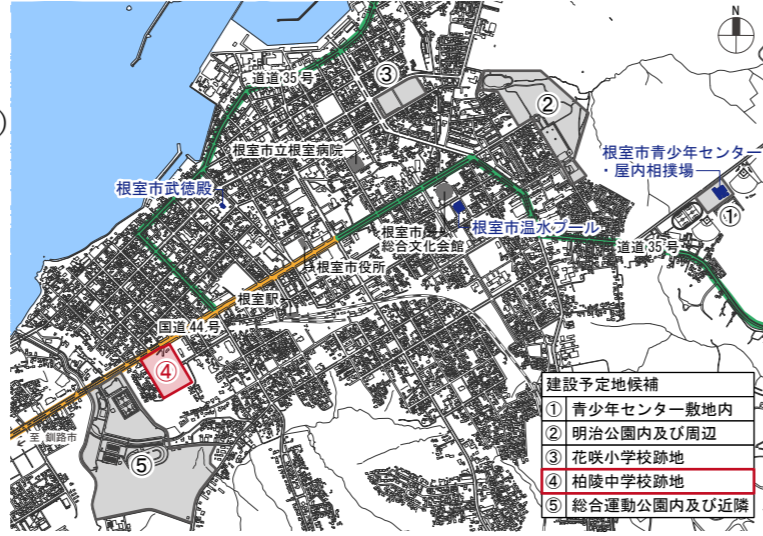


4 新総合体育会館の設計に関する諸条件の整理

4-1. 建設候補地の比較検討と建設地の選定

最も優位性が高いと考えられる建設候補地を絞り込むものとして、それぞれの個別評価を評価項目毎（立地・駐車場・敷地環境・経済性・防災性）に比較検討する総合評価については、次の検証結果を踏まえながら行うものとしします。

個別評価を比較検討し、更なる検証結果を踏まえた総合評価として「④柏陵中学校跡地」が最も優位性が高い建設候補地であると考えます。よって、主要幹線道路に直結し市街地中間部に位置するなど優れたアクセス性を有するとともに、敷地全体が浸水の恐れが無い高台であるなど、平常時はスポーツの殿堂、非常時は市内最大の避難所として、二つの機能性を高く発揮することができるなどの理由から、「柏陵中学校跡地」を建設候補地として選定します。



4-2. 部門別の館内構成・競技環境の確保・諸室機能の整理

新総合体育会館は、アリーナ・武道場・プール・共用諸室・管理の五つの部門による館内構成とし、スポーツの殿堂としての機能を高める一方、市内最大の避難所として、避難生活に必要な広さ・間取り・動線の確保とも整合を図るものとしします。

アリーナ部門	球技種目を主として、青少年センターを継承する機能
武道場部門	格技種目を主として、武徳殿及び屋内相撲場を継承する機能
プール部門	水泳種目を主として、温水プールを継承する機能
共用諸室部門	その他の活動用途や利便性の確保に資する機能
管理部門	施設全体の管理運営を主とする機能

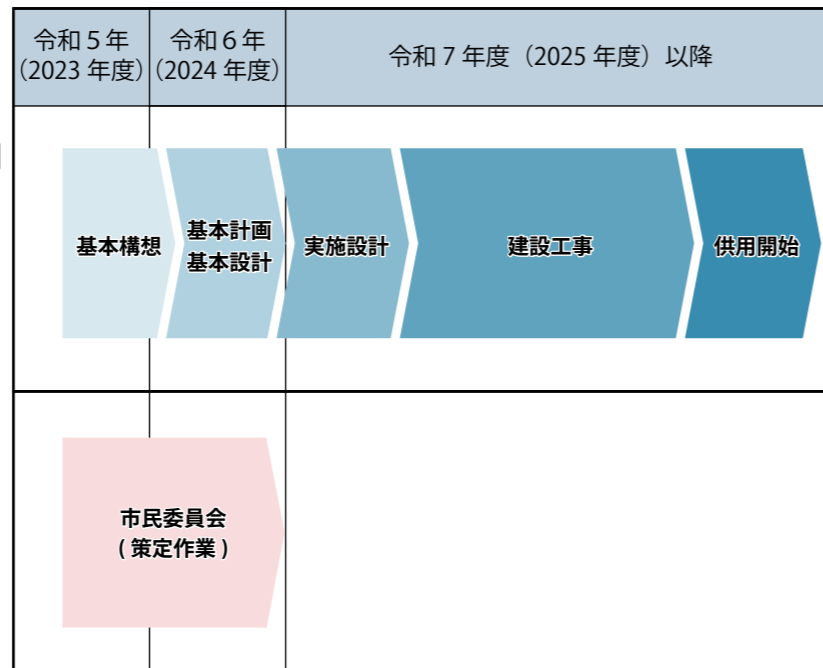
6 事業スケジュール

【市民委員会による策定作業の流れ】

基本構想での新総合体育会館の建設に向けた「骨格づくり」に続き、基本計画では、その基本構想でまとめた「骨格」に「肉付け」を行い、更に続く基本設計では、これらを踏まえた「設計図の基本」を作成するなど、それぞれの策定作業を行います。

【行政による事業実施と進捗管理の流れ】

基本構想に続き、市民委員会の意向を踏まえた基本計画や基本設計に基づくものとして、技術的な検証や専門的な知見を加えた実施設計を行うなど、その後となる建設工事等を含め、新総合体育会館の建設に向けた事業実施と進捗管理を行います。



根室市総合体育会館基本構想 [概要版]

1 基本構想策定の背景と目的

根室市においては、総合計画（平成27年7月策定/第9期計画）の中で「誰もが日常生活の中で、スポーツ活動に親しむことのできるまち」を政策目標に据えており、更には、その中で「スポーツ環境の整備」を掲げているなど、誰もが気軽に楽しく活動できるスポーツ環境の整備・充実を図るとしてあります。

こうした中、根室市には青少年センター・武徳殿・温水プール・相撲場の4つ屋内体育施設がありますが、それぞれの施設が市内各所に分散していることや手狭で老朽化が著しいことで、多様化する利用者ニーズに応えることが難しく、とりわけ、築50年を超える青少年センターと武徳殿は、現在の耐震基準を満たさず、安全・安心なスポーツ活動を担保する上でも、早急な対応が求められております。

本基本構想では、前身となる総合体育館整備市民委員会での議論や市民意向調査の結果、更には根室市総合体育館整備基本方針など、これまでの流れを踏まえながら、スタートアッププランとなる基本構想を策定することによって、新総合体育会館の建設に向けた歩みを着実に進めるとともに、屋内競技団体やスポーツ愛好家のみならず、誰もが気軽に集える機能豊かな市民全体の施設となるよう、整備すべき施設規模・施設機能・施設構成・建設地・建設費等の主要事項を大きな柱として、目指すべき新総合体育会館の姿について、取りまとめることを目的とします。

耐震基準	施設名	竣工年	築年数
旧耐震基準	根室市青少年センター	昭和45年(1970年)	53年
	根室市武徳殿	昭和36年(1961年)	62年
新耐震基準	根室市温水プール	昭和63年(1988年)	35年
	相撲場(根室市青少年センター敷地内)	平成19年(2007年)	16年

2 前提条件の整理

根室市青少年センターの施設概要

所在地	根室市牧の内146番地16	設置年月日	昭和45年12月20日
構造・面積	鉄骨および鉄筋コンクリート造 地上2階建て 敷地面積:8,390.60㎡ 延床面積:2,963.10㎡		
収容人数	2,975名 体育館観覧席:約370席(50cm/人)		



根室市武徳殿の施設概要

所在地	根室市弥生町2丁目5番地	設置年月日	昭和36年7月11日
構造・面積	木造 平屋建 敷地面積:6,862.00㎡ 延床面積:311.85㎡		
面積	柔道、剣道場:311.85㎡		



根室市温水プールの施設概要

所在地	根室市曙町2丁目29番地	設置年月日	昭和63年4月1日
構造・面積	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階建て 敷地面積:3,297㎡ 延床面積:2,228.68㎡		
主要施設	日本水泳連盟公認7コース25m×15m、低学年用17m×10.5m 幼児用10.5m×3.5m、観客席:約180席(50cm/人) トレーニング室53.72㎡、研修室105.09㎡ 観客席:約30席(50cm/人)		



2-6. 根室市の屋内体育施設における課題整理

根室市の屋内体育施設（青少年センター・武徳殿・温水プール・屋内相撲場）におけるそれぞれの現況や課題、更には市民意向調査から得られたニーズを踏まえ、屋内体育施設全体としての主な課題点を次のとおり整理します。

(1). 経年劣化による著しい老朽化・耐震性や安全性への懸念

- 建物のひび割れや躯体の歪みなど内外とも経年劣化による老朽化が著しく、抜本的な対応が必要となっています。
- 築50年を超える根室市青少年センターと根室市武徳殿は、現在の耐震基準を満たしておらず、耐震性や安全性に懸念が生じており、早急な対応が必要です。
- 現在の耐震基準を満たしているものの、築35年で耐用年数が今後課題となる温水プールや、簡易的なプレハブ構造で施設面での耐久性が課題の屋内相撲場も整備対象として検討が必要となっています。

(2). 施設機能の不足と狭隘化

- 全道大会レベルの公認施設として適合させるために、メイン及びサブ併設のアリーナ構成をはじめ、観覧席の増加やランニングコースの設置など、アリーナ機能全体の抜本的な拡充が必要です。
- 各種団体やサークル等の活動や新たなスポーツジャンルへの対応など、シャワー室や更衣室を含めた共用諸室機能の拡充が必要です。
- 機器類の更新も含め、近年、体力向上など健康志向の高まりから利用者の増加が見込まれるトレーニング室機能の拡充が必要です。
- スポーツ以外の施設機能として、災害時に一時避難できる安心で安全な場所として望む市民の声も多いため、これを踏まえた防災拠点としての検討が必要です。

(3). バリアフリー・ユニバーサルデザイン化への対応

- 誰もが快適に利用できるよう、オストメイト対応型多目的トイレをはじめ、授乳室やキッズルームなど、施設全体のユニバーサルデザイン化が必要です。
- 障がいのある方をはじめ、高齢者や妊婦の方などの利用を考慮し、エレベーターや手すりの設置、更には床面のフラット化といった段差解消など、施設全体のバリアフリー化が必要です。

(4). 立地・アクセスの改善

- 青少年センターと屋内相撲場が中心市街地から遠く離れている上、直接乗り入れる公共交通機関も無いなど、アクセスが困難な状況となっています。
- スポーツ以外の施設機能として、防災拠点化を見据えた場合、避難者が速やかにアクセスできる立地が求められます。

(5). 分散する屋内体育施設の複合化・集約化

- 市の公共施設等総合管理基本方針で、新規の施設整備の際の複合化や集約化が基本であることに加え、これを望む市民の声も多いため、一元的な施設管理体制の導入による利便性の向上を含め、施設の集約化・複合化が求められます。

3 目指すべき新総合体育会館の姿

3-1. 基本理念

新総合体育会館の建設にあたっては、様々な機能を有するスポーツの殿堂とする一方で、市民全体のコセンサス獲得など、スポーツ以外の機能効果を楽しむ市民全体の施設を目指すことが重要となることから、これらを踏まえた「基本理念」を次のとおり定めます。

**基本
理念**

**スポーツ愛好家や屋内競技団体は勿論のこと、
誰もが気軽に集える機能豊かな市民全体の施設を目指して**

3-2. 基本方針

新総合体育会館の建設に向けて、目指すべき施設の在り方や方向性を具体的かつ体系的に示すため、前述の「基本理念」との整合の下、4つの視点による「基本方針」を次のとおり定めます。



3-4. 目指すべき新総合体育会館の姿

前述の基本理念・基本方針・整備方針との整合の下、新総合体育会館の建設にあたっての柱的要素となる「目指すべき新総合体育会館の姿」を次のとおり定めます。



- 平時時にあっては、様々なスポーツスタイルへの対応をはじめ、全道大会公認施設への適合や新たなスポーツジャンルを含めた多彩なイベント等の開催など「スポーツの殿堂」としての機能を果たすものとします。
- 非常時にあっては、屋内体育施設特有の広く空洞構造の集約体である特性を大きな収容力として活かすことで、多くの避難者や支援物資などを受け入れる「市内最大の避難所」としての機能を発揮させるものとします。